

令和7年度

1 教育目標 **自分・仲間・夢 『かがやく出羽の子ども』を育てる**

《めざす子ども像》 かがやく出羽の子ども ～出羽の風土の中でよりよい自分(の生き方)を求める子ども

こころゆたかな子ども	多様性に心を開いて、協働・共生を求める子ども
かしこい子ども	変化に心を開いて、学びを求める(続ける)子ども
たくましい子ども	自分を大切に思い、健康的な生活(くらし)を求める子ども

《成長の合言葉》	はみ出せ心	思いやり と 違いを認める心	(やわらかく、しなやかな心)
	ひらめけ頭	豊かな発想 と 変化に対応する知恵	(やわらかく、しなやかな頭)
	とび出せ体	自己肯定感 と 一歩踏み出す行動力	(やわらかく、しなやかな体)

《めざす学校像》 一人ひとりが、自分らしく輝く学校 ～よりよい自分をつくる

《めざす教師像》 子ども、保護者、地域の考えや思い、願いに心と耳を傾ける教職員
子ども一人一人の「らしさ」を大切に、「自分づくり」に寄り添う教職員
未来を担う子どもたちに、夢や希望を育み、「多様な生き方」を支える教職員
自らの職に誇りと責任をもち、互いのよさを認め、高まり合い、学び続ける教職員
チームワーク・フットワーク・ネットワークを合言葉に機動力のある教職員

《研究主題》 一人ひとりが自分らしくかがやく子どもの育成(1年次)

2 学校経営方針

(1) 自尊感情を育み、よりよい自分(の生き方)を求め続ける人を育てる

① 「山形県人権教育推進方針」に基づき、つけたい資質・能力を育む

人権や多様性を大切に、「愛されている実感」や「わかり合うための行動」「自他を尊重する生き方の継承」を大切にしながら、家庭や地域と連携して、つけたい資質・能力を育む。

② 「生徒指導の四機能」を生かした授業づくりに努める

「自己存在感」を高める授業、「共感的な人間関係」を育む授業、「自己決定の場」を設定する授業づくりに努める。

③ よりよい生き方を共に考える「寄り添う指導・支援」に心がける

一人ひとりの学び(生活)の履歴を踏まえ、一人ひとりがこれまで培ってきた生き方を受け止め、認め、よりよい生き方を共に考える「寄り添う指導・支援」に心がける。

(2) 「出羽」の強みを活かす

学校運営協議会を生かし、出羽小学校(出羽地区)ならではの「人的な強み」「環境的な強み」「伝統的な強み」を整理し、教育活動へ効果的に活かす。

(3) 共に学び合い、支え合う教職員「チーム出羽」のOJTとフットワーク(阿吽の呼吸)を活かす

校内研究を核としたOJTを日常化し、子どもを通して学び合う。また、気がかりに思ったことや感じたことをみんな(子ども・保護者・地域の方・教職員)で検討し、改善が必要な時は、対話を深め、知恵を出し合い実行する。PDCAを常に機能させ、子どもに力がつくと思うことは、即実行の気構えを持つ。

3 本年度の学校経営の重点実践事項

子どもの「自分づくり」を支えるために・・・

(1) 出羽の風土で育てる

- ・ 畑(自然、文化、人)や田(稲作DASH)を通じた学習の推進
- ・ コミセン事業とのコラボレーション(出羽地区を考える会、音楽フェス、紅花発表・・・等)
- ・ 『ほっとるうむDewa』や『ひろがるうむ』による支援

(2) 「自分大好き」「友だち大好き」を育む

- ・ 子どもと子ども、教師と子ども、教師と親、子どもと親・・・等、「きき合う」姿勢を基本にする。
- ・ 一人ひとりのよさ(個性)を生かし、相互理解を活性化する学級経営に努める。

(3) 校内研究の日常化を図る

- ・ 「ジャンプの課題」(変化)(チャレンジ)に粘り強く取り組む楽しさを感じられる支援に努める。
- ・ 「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」「安全・安心」の視点を日常化(授業や生活)する。

(4) なかよし班活動や児童会活動の活性化を図る

- ・ 縦割り組織を活用した学びを推進し、子どもを育てる。困難にも積極的にチャレンジする。

(5) 「運動大好き」「給食大好き」「お掃除大好き」「頭スッキリ」を育む

- ・ スッキリの心地よさを感じられる支援に努める。